



きずな

第6号



発行 令和3年12月7日

全国公立学校教頭会

電話： 03-3436-6868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jpHP： <http://www.kyotokai.jp>

今回は、令和3年11月18日の「第39回四国地区小中学校教頭会研究大会 愛媛大会」と令和3年11月19日の「第41回中国地区公立学校教頭会研究大会 山口大会」についての報告になります。各ブロック長様に研究大会の様子をご報告いただきました。また、全公教広報部もオンラインで参加して、教頭会通信の掲載内容に活用させていただきました。

1 大会名称 **第39回 四国地区小中学校教頭会研究大会 愛媛大会**
第60回 愛媛県小中学校教頭会研究大会（松山大会）

2 開催期日・場所 令和3年11月18日(木) 場所：オンライン全体会

3 日程・大会の概要

(1) 日程

開会式	14時00分 ~ 14時20分	四国地区会長挨拶 全公教会長挨拶 事務連絡
記念講演	14時30分 ~ 16時00分	記念講演 質疑応答 謝辞
閉会式	16時00分 ~ 16時10分	次年度開催県会長 閉会挨拶

(2) 概要

- 研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」
サブテーマ 夢と志を持ち 絆を深めながら可能性に挑戦する子供の育成
- 記念講演 演題 『人を動かすための働きかけ』
講師 二宮 清純 氏 (スポーツジャーナリスト株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役)
- 分科会 紙面発表

4 大会に参加しての感想等

今年度は、開閉会式、記念講演をオンラインで行うハイブリッド型で大会を行った。オンライン開催にあたり、松山市内の公立小学校のPTA会長を務めているの方の会社に技術面で協力いただくとともに、保護者の立場として、進行の一部にも協力していただき、大きなトラブルもなく会を運営することができた。

二宮清純先生の講演は、人を動かすためのリーダーとしてどうあるべきかを、ご自身の幅広い交友関係の中から、特に印象に残っている方のお話をいただき、その方のエピソードとともに分かりやすく御教授いただいた。また、最後の質疑応答では、学校現場で人を動かす立場の教頭としてどうあるべきかの質問に対し、丁寧にお答えいただいた。

今後は、四国の先生方の提言を研究集録にまとめ、発信していくとともに、次年度へとつなげていきたい。
(全公教 広報部)

オンライン全体会と書面発表を組み合わせた「ハイブリッド大会」として実施したこの大会は、コロナ禍において最も有効な開催方法の一つであろう。

記念講演では、スポーツ界で活躍する日本人選手たちを育てた指導者の言葉を取り上げながら、スポーツを通じて見る強い組織のあり方や、リーダーに求められる資質などについての貴重なお話をいただいた。その中から、教頭として若手育成に携わる場面で生かしてほしい言葉を紹介する。

- ・2020 東京オリンピックでチームを銀メダルに導いたバスケットボール女子日本代表のヘッドコーチを務めたトム・ホーバスさんの言葉。平均身長で他国のチームには到底かなわない日本チームの作戦は、3ポイントシュート。失敗したらリバウンドを取られて反撃される。しかし、3ポイントシュートの成功率を高めることで活路が見出される。「失敗とは、ミスをすることではない。ミスを恐れてチャレンジしないこと。」

- ・日本パラリンピック委員会の委員長河合純一さんの共生社会の考え方。「ミックスジュースのように元の素材をすりつぶした姿ではなく、フルーツポンチのようにそれぞれの形や個性が生きたまま混ぜ合わさっている姿にしていきたい。お互いのちがいを認めあい、そのままの姿で輝ける社会を目指したい。」
- ・素晴らしいリーダーは、コミュニケーション力が高い。マラソンの有森裕子選手や高橋尚子選手を指導した小出義雄さんとの対談から、上に立つものの責任として次の言葉が紹介された。「『伝えた』と『伝わった』は違う。リーダーには、伝わったことを確認する義務がある。」
- ・野茂英雄選手やイチロー選手を育てた仰木彬監督の人づくり。「人は、その才能の形を認めることで育つ」「適材 適所 適時（旬の時期はいつなのか、ずっと見ていて、いつチャンスを与え、いつ注意を促すかそのタイミングをつかみ働きかけることで、人は大きく成長する）」



1 大会名称 **第 41 回中国地区公立学校教頭会研究大会（山口大会）**
第 43 回山口県公立学校教頭会秋季研修大会

2 開催期日・場所 令和3年11月19日（金） ウェディングコートエミリア

3 日程・大会の概要

(1) 日程

開会行事	13時00分 ～ 13時30分
	① 開式の言葉 ②国歌斉唱 ③大会会長挨拶 ④山口県教育委員会教育長挨拶
	⑤来賓祝辞 ⑥来賓紹介並びに祝電披露 ⑦閉式の言葉
記念講演	13時30分 ～ 15時00分
閉会行事	15時10分 ～ 15時30分
	① 開式の言葉 ②大会総括 ③次年度開催県紹介（鳥取県会長）④所連絡 ⑤閉式の言葉

(2) 概要

- 研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」
未来をたくましく生き抜く子どもを育む 魅力ある学校づくり
～自立と共生を目指して～
- 記念講演 演題 「令和の日本型学校教育を踏まえた教頭の在り方」
講師 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 玉置 崇 氏
概要 令和の日本型学校教育の構築を目指して、新学習指導要領の着実な実施、GIGAスクール構想の実現、学校における働き方改革の推進等を実現するための手立てと教頭の役割について。
- 分科会 紙面発表

4 大会に参加しての感想等

山口大会は、当初は参集型で行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、オンライン開催となった。しかも分科会については、紙面発表となり残念であった。

記念講演では、岐阜聖徳学園大学教授玉置氏の講演が素晴らしく、「日本型」の意味、「個別最適な学びと協働的な学び」の実現について、具体的な例や授業改善の手立て、教頭の役割を聞くことができ、学校現場で生きる内容だった。

また、「GIGAスクール構想」においてリーダーとしての働きかけ方、「働き方改革」をする意味、職員への伝え方等を聞くことができ、今後の財産となった。